

補助録音教材

No.	タイトル	時間(分)
1	書籍の紹介及びゼミナールの紹介	36
2	質問boxの意味と使い方について	5
3	自己の学習スタイルの理解と新たな学習スタイルの確立	7
4	ラーニングログの勧め	6
5	「成長」「発達」という言葉について	6
6	ウィルバーの5つの思想区分と本書の位置付け	17
7	"return to goodness model"と"growth to goodness model"について	7
8	「発達は善なるもの」という発達の問題点と歴史的背景	12
9	日本においてインテグラル理論がこれまであまり認知されてこなかった理由について	7
10	「超えて含む」という言葉について	4
11	チベット仏教とウィルバーの発達理論の関係	6
12	【閑話休題】ロシアに入学するために必要なことを4象限的に考えると？	12
13	書籍には書かれていないウィルバーが伝えたかったメッセージにはどのようなものがあるか？	7
14	ウィルバーのような発想・あり方を実現するには？私たちが一段深い発想・あり方を実現するには？	28
15	英語学習の勧めと英語がもたらす自己成長	14
16	スパイラル・ダイナミクス理論とチャクラ理論の色の使い方が違うのはなぜか？	9
17	インテグラル理論に対する批判	10
18	海外・国内におけるインテグラル理論や成人発達理論の活用事例	11
19	ティールやターコイズ以上の発達段階について(その1)	10
20	ティールやターコイズ以上の発達段階について(その2)	8
21	発達と年齢との関係(その1)	5
22	発達と年齢との関係(その2)	5
23	第二層を超えた意識段階と「環境依存性」や「課題依存性」との関係	7
24	高次な発達段階に至らなければ高次な発達段階を分析することや支援はできないのか？	8
25	発達の螺旋と時間軸の関係	4
26	初回のクラスに向けて！	15
27	統合的実践は誰のための実践か？	8
28	発達支援のタイミングを見極める基準・三つの重要な判断基準と支援方法	17
29	クリニカルジャッジメント・アクチュアルジャッジメント・発達のレディネスをAQALを用いて整理してみよう	19
30	個人・組織の発達に関するバランスについて	14
31	第2回のクラスに向けて	22
32	人口と社会勢力の意味と関係性(書籍冒頭の挿絵より)	13
33	リフレクションジャーナルを執筆する意義・発達の効果・習慣化のポイントと方法	23
34	第3回のクラスに向けて	9
35	成長型の階層構造と支配型の階層構造について	10
36	統合的ヴィジョンは日本人の思考様式とどれだけマッチするものなのか？	8
37	オランダの銀行の特徴を4象限的に見ると？ タイプに関する補足	12
38	クワド ラント (quadrant) とクワド リヴィア (quadri-)_リアルタイムでの気づきを得るためのコツ	28
39	リアルタイムでの気づきを得るためのコツ(補足)	9
40	タイプの補足とタイプから見た「食事実践」	35
41	タイプから見た「資産運用」	29
42	神道の思想の重心はどの段階？	8
43	健全さと不健全さの違いについて	21
44	発達段階の分布と世代との関係性	7
45	ステートの活用方法 意識の状態と多様な実践	24
46	4象限における客観の単数 リアルタイムなりフレクションの盲点	8
47	存在状態と特有の心理 ベースペーカーとしての認知的ライン	6
48	AQALを活用した学生支援	11
49	発達上の「死」とは？ ホロンと調和	14
50	第4回のクラスに向けて	13
51	インテグラル理論を規範理論として用いることの危険性	7
52	ウィルバーやインテグラル・コミュニティと宗教との関係 人智学・神智学・エサレン研究所との関係	12
53	意識研究にシステム理論や複雑性科学を活用することへのウィルバーの批判について	8
54	トランプ大統領型リーダーはティール型リーダーになり得るのか？ ティール段階の人の怒りの特徴と示し方	14
55	第二層の人口割合に対する疑問	7
56	第5回のクラスに向けて	4
57	(息抜き課題)和牛「電車のマナー」の漫才に見られるインテグラル理論や成人発達理論の概念・観点	23
58	スパイラル・ダイナミクスの発達モデルで提唱されている各段階についてより深く学ぶためのお勧め書籍	3
59	ライン相互間の関係性について 発達のベースペーカーとしての認知的ライン	8
60	視点取得能力に関するお勧めの日本語論文	5
61	自己受容と発達との関係性	5
62	前後の混同(前超の虚偽)についての補足	17
63	高度な内省能力と発達との関係性	13
64	魂とスピリットの違いについて 心・魂・スピリットと様々なボディとの関係性	16
65	「ティール組織」と階層構造について	7
66	ナルシズムを克服することについて及びその実践	7
67	アーノルド・ミンデルのプロセスワークとインテグラル理論との関係性	2

全8回のクラス

曜日	時間(分)
1st Friday	64
1st Sunday	66
2nd Friday	63
2nd Sunday	62
3rd Friday	62
3rd Sunday	68
4th Friday	64
4th Sunday	58
5th Friday	62
5th Sunday	62
6th Friday	66
6th Sunday	64
7th Friday	59
7th Sunday	56
8th Friday	59
8th Sunday	48

total 983

68	「超えて含む」という体験について	7
69	第6回のクラスに向けて	5
70	個人・組織におけるフロー・ゾーン体験について	9
71	アニメや漫画と発達段階	16
72	インテグラル理論と幸福(その1)	10
73	インテグラル理論と幸福(その2)	14
74	第二層に到達した後の個人と社会の姿	15
75	自我のライン・価値観のラインと「自己中心性の減少」との関係	9
76	螺旋全体の健全さを高めるあり方・行為とは? 基底価値と内在価値	11
77	自我のライン・価値観のラインと息抜き課題(パート2)の補足	11
78	第6回金曜日クラスを振り返って 4年間の休養生活について	22
79	芸術的実践を取り入れることの意義と尊さ	14
80	オイル(油)について学び、食生活を見直そう	21
81	食生活を見直そう(その2) 断食や一日一食生活について	18
82	芸術的実践の補足 発達と直感(全体把握・ビジョンロジック)	10
83	食実践と発達との関係性	18
84	インテグラル理論や発達測定の認定資格制度やクオリティコントロール(その1)	16
85	インテグラル理論や発達測定の認定資格制度やクオリティコントロール(その2)	12
86	自己から出発し、自分に固有の道を歩むこと	18
87	「知の創造者の五段階」と発達段階の関係性について	19
88	「知の創造者の五段階」と発達段階の関係性についての補足	15
89	第6回日曜日クラスを振り返って 多様性尊重・統合の弊害 発達の退行について	13
90	第7回のクラスに向けて(その1) 統合的実践の主要モジュールについて	32
91	第7回のクラスに向けて(その2) 統合的実践のサブモジュールについて	23
92	統合的実践をデザインする際の二つのポイント	21
93	主要モジュール・多様なサブモジュールを横断する「ボルダリング」とは?	31
94	統合的実践に関する補足 芸術実践・身体的実践について	26
95	性の実践・性のラインについて	32
96	性の実践の奥深さを示す興味深い体験談	7
97	薬物・精神変容作用のある物質と意識の発達について	45
98	(余談)三つのご報告事項 新たな実践の開始	18
99	(息抜き課題の解説)尾崎豊さんとの出会い	15
100	(息抜き課題の解説)尾崎豊「卒業」の世界観の発達段階	19
101	(息抜き課題の解説)発達測定の要諦を掴むオリジナル漫才(コント)	40
102	(息抜き課題の解説)オリジナル漫才(コント)に関する補足訂正	5
103	(息抜き課題の解説)尾崎豊「存在」の世界観の発達段階	23
104	(息抜き課題の解説)Omikara "Remember"の世界観の発達段階	20
105	「超えて含む」という現象を表す言語表現について	8
106	第6章の幾つかの言葉とハイデガーやサルトルが述べた「投企」との関係性	5
107	意識の状態(State)と意識の段階(Stage)の区別	12
108	発達に関するリテラシーが高まっていくプロセスと高度なリテラシーの応用可能性	22
109	直感(直観)と行動・段階との関係	6
110	変容の触媒を体現することに有益な書籍について	6
111	オットー・ラスキーが提唱する28個の思考形態 Measuring Hidden Dimensions of Human Systems	9
112	意識段階や文化を超えて人々が理解し合える手段はあるか?	9
113	(連絡事項)リフレクションジャーナルを実践する仲間の募集	8
114	最終回のクラスに向けて	10
115	発達測定を日本で普及させる活動についての考えと方向性	10
116	エニアグラムやMBTIに代表されるタイプとレベルの統合について	13
117	インテグラル理論・発達理論に基づいた食実践・ファスティング	41
118	ヨーガという言葉で共有されるものについて	11
119	エニアグラムとMBTIの活用の勧め 私自身の分析結果の共有	29
120	自分に合致した食実践を行うために	18
121	高次元の意識体験が持つ再現性と未知の窓	10
122	(余談)番外編のリアルゼミナールとエニアグラムの再結果についてのご報告	16
123	「自己の客体化」に劣らず重要な「他者の主体化」	9
124	「前後の混同(前超の虚偽)」と高度な発達段階の言語特性(詩的言語)について	7
125	「前後の混同(前超の虚偽)」についての補足(その2: その1はNo.62)	13
126	人工知能(AI)と意識	14
127	意識変容作用のあるアヤワスカについて その目的・知覚体験・注意点など	36
128	統合的実践者の身体特性	19
129	意識の発達に関して研究が進む論点・未だ解明されぬ論点について	7
130	「ヴィジョン・ロジック」という言葉について 低次・高次ヴィジョン・ロジックの特性	13
131	「認知のライン」と「自我のライン」の大きな違い	7
132	(応用論点)クワドラントとクワドリヴィアの違いについて	13
133	Youtubeチャンネルの作り方と動画の簡単な投稿方法 情報の単なる消費者を脱却して、情報の生産者・共有者になることへ向けて	13
134	スパイラルダイナミクスの発達モデルとカート・フィッシャーの発達モデルの対応関係	9
135	目撃者の意識状態について メタ認知との違い 高度な発達段階との関係性	18

136	オレンジ・グリーン・ティール的思考形態を分かち特性 文脈思考(contextual thinking)について	12
137	シャドーの定義とシャドーワークの意義	15
138	人間の感情について 感情自体の発達や成熟について	9
139	命(いのち)	10
140	ラージャ・ヨーガの実践とシャドーワーク 一人称的言語化と二人称的言語化	19
141	p.324の統合的実践の例について	11
142	4象限の視点移動について(斜めのみならず上下左右への動き)	11
143	発達の儚さと虚しさについて	23
144	ファイナンシャルリテラシーと資産運用について 資産運用の学習と実践の始め方	70
145	(尾崎さんごめんなさい)ボルダリング檜崎智亜選手が見せてくれた日本人の可能性！2019 IFSC クライミング世界選手権大会決勝より	7
146	ファイナンシャルリテラシーと資産運用に関する補足	29
147	長期出張や旅行等での食実践の工夫と方法	12
148	(連絡事項)ゼミナール後の実践に向けたフォルダを作りました！	8
149	食実践における飲み物について シャドーワークの補足	23
150	統合的実践のコミュニティについて	13
151	ターコイズ段階と慈悲心について	12
152	(最後の音声ファイル)ゼミナールを終えての皆様からのコメントの紹介とお礼	38

Total

2195